

『わくわ〜く』が できるまでストーリー

「わくわ〜く」は2012年11月の創刊以来、5年間で10号を発行しました。そこで今までのバックナンバーを振り返ります。取材や制作に協力してくださったみなさま、ありがとうございました。これからもよろしくお祈いします。

創刊号
2012年
11月発行



おいしいメニューがずらり

記念すべき第1号は、市内作業所が運営するカフェやスイーツを紹介。市内には作業所等が運営するカフェやレストランが今、8軒あります。

1号〜2号ではカフェスイーツ、ベーカリー、クラフト作品などを紹介しました。

2号
2013年
2月発行



市内作業所が焼くベーカリー（パン）と、クラフト作品の数々を特集。「こんな多彩なパンや雑貨があるのか」と話題に。また、市内の11カ所の図書館の本の移動を請け負う「図書館メール」という仕事で活躍する仲間の姿を紹介しました。

笑顔と元気があふれる調布のバリアフリーマガジン

3号
2013年
9月発行



3号では、市内の作業所などをサポートする団体や人々を紹介。音楽で支援してくださるじょうろくらぶのGANTAさんはじめ、布田にある小野牧場の小野一弘さんなど、多くの支援者のみなさん取材しました。

3号〜4号ではさまざまなシーンでサポートしてくれる方々を紹介しました

4号
2014年
3月発行



支援してくださる方のやりがいも紹介しました

4号では、絵本や紙芝居の読み聞かせや、フラワーアレンジメント、陶芸教室の開催、農作業支援、焼きそばを焼く野外イベント支援など、ボランティアで協力してくださる方々を紹介しました。

5号
2014年
10月発行



検査キットや雑誌の付録の個別包装、コネクタの組み立てなどを行っています

障がい者のしごとを特集。第1特集では企業からの作業所の受託事業とそこで働くメンバーの姿を紹介。第2特集では、街のあちこちでしごとを通して地域で活躍するメンバーを紹介しました。

障がい者のしごとや
はたらく場所の確保は
大きな課題です!

6号
2015年
3月発行



第1特集では2015年春の新作スイーツ&グッズを紹介。第2特集では「調布市ごみリサイクルカレンダー」「ふくしの窓」「地域活動情報誌じよいなす」などを配布する「ポスティング」を紹介しました。3紙とも市の約半分の地域での配布を福祉作業所等連絡会で受注し、手分けして行っています。

8号
2016年
3月発行



慈恵医大第三病院の渡邊修先生にわかりやすい解説をいただきました

9号
2016年
10月発行



パラリンピックに期待のかかる2人の選手も紹介

水泳、ボルダリング、空手、野球、卓球、テニス、フィットネス、フラダンスなどスポーツを楽しんでいる様子を紹介。また、1992年2月に発足した連絡会の24年の歩みを「連絡会ができるまでストーリー」として紹介しました。

調布市内の女子高生の福祉作業所訪問と、市内福祉作業所の今と未来を担う若手スタッフのフットサルシーンを紹介しました。読者から「若いスタッフがこんなにいるのか。頼もしい。安心。」という声をいただきました。



若手&ベテラン46名が揃った「職員スポーツ交流会」取材

7号
2015年
10月発行



女子高生の「福祉作業所ってなんだか楽しい」との声は新鮮でした

表彰状

わくわ〜くでは日頃お世話になっている人や店、団体などに表彰状をお贈りしてきました。



「調布中央商店会」様へ表彰状をお届けした時のワンカット

◎お贈りした人・店・団体

- 4号 「セブンイレブン野川大橋南店」様
美容院「bianca(ピアンカ)」様
- 5号 「おきもと内科クリニック」様
「髪シムムラ」様
- 7号 「不動商店会」様
「中華料理 渝園(ゆえん)」様
- 8号 「ローソン布田5丁目店」様
京王「A Lot調布中央口改札店」様
- 9号 スーパー「みなとや(飛田給)」様
「調布中央商店会」様

日頃から多くの方に
お世話になっています。
いつもありがとうございます。

多くの思いが詰まった
冊子「わくわ〜く」

わくわ〜くが創刊した年の1年半前に調布市福祉作業所等連絡会に「事務局」と「専属スタッフ1名」が誕生しました。障がい者の工賃アップを目的に企業等と交渉を重ねるなかで連絡会のことを伝えるツールがないことで苦労しました。そこで連絡会のことをしっかり伝え、福祉っぽくなく、当事者の普通の生活が見えて、障がい者と健常者の垣根を取り払うような冊子が作れないかと検討し、地元クリエイターといっしょに議論を重ね、今の「わくわ〜く」が生まれました。

連絡会の中に編集会議という組織ができ、毎月発行する4カ月前から集まって内容を決め、仕事が終わったあとに分担して校正をしながら、5年間で10冊を発行しました。

誌名の「わくわ〜く」とは、「わくわ〜く」と「働く(ワーク)」を組み合わせたもの。楽しく調布で働き、わくわ〜くしながら暮らして欲しいとの思いが込められています。誌面では、障がい者のしごとの様子の紹介、事業所の運営するカフェやベーカリー、スイーツ、クラフト製品の紹介、「高次脳機能障害」の説明など大切なことはしっかり伝えながら、みなさんのイメージを覆す、女子高生やミス調布の福祉作業所訪問、作業所スタッフのアフターファイブのフットサル交流会の様子など、硬軟とりまぜてさまざまなシーンをお伝えしてきました。

おかげさまで市民の方から心温まる感想もいただき、行政の方も情報誌として活用して下さる冊子となりました。今後も元氣いっぱい作り続けていきますので、応援をよろしくお祈いします!



編集会議の様子